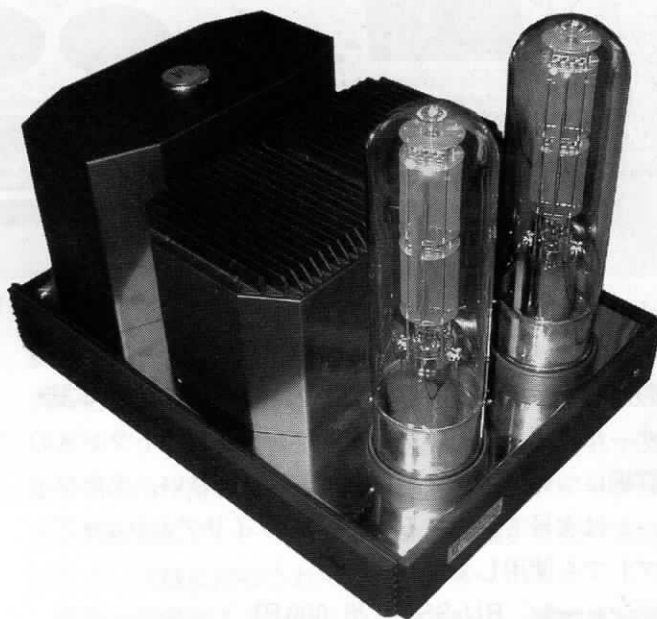
●KR社 超大型管球アンプ“Kronzilla SD”登場

チェコで真空管を製造しているKR社が開発した超ド級アンプ“Kronzilla”が日本に上陸した.

このアンプはKR社がオーディオ用に開発したT 1610を採用しているのが特徴だ. このアンプは故Dr. Riccardo Kronが開発したアンプで, 現在KR社は夫人であるDr. Eunice Joy Kronが社長として引継ぎ, またMr. Marek Gencev氏がチーフエンジニアとして技術一切を統括しており, 忘れ形見といえるものだ. T 1610は1920年代にWEによって開発された212の現代版とも言うべき真空管で, ほぼ同じ大きさでありまさにタマげたサイズである. 1本で22W出せるというのもこのタマの特徴だ. 大型直熱3極管にふさわしい風貌, 特性, 信頼性, 寿命を誇るのもうなずけよう. ヒータはKR社の特許である切れにくい構造のリボン型フィラメントを採用している.

このアンプはシングルのステレオ仕様になっており, T 1610を十分ドライブするために半導体(MOS-FET)ドライブになっている. また日本での販売品はアムトランスによって, 一部高音質部品に交換され音質改善が施されているようだ.

出力	2×22Watt RMS
歪率	0.5%以下
周波数特製	20Hz~20KHz(-3dB)
入力感度	1V
入力インピーダンス	90kΩ
AC入力	100V/230V
最大消費電力	300VA
サイズ	55×38.5×41.5cm
重さ	50kg

●1,200,000円
(1台)

●シャーシ内部：左側のソケットが1610.